

豊かな人間に

木戸 清宮礼子(学生)

晴れて成人の日を迎えることができ、両親そしてまわりの皆様に深く感謝しております。

成人になったとはいえ、まだ学生の身で親のスネをかじって生活していますので、選挙権を得られたということくらいで、これといって成人になったという実感はありません。私も就職が決まり、今年の四月

自分に自信を

小川台 須合 崇(学生)

前々から、自分の心境は二十歳になった時点で、いかなるものかと思っていた。

そして、複雑というよりはむしろ、非常に憂うつな気持ちで誕生日を迎えたのを思い出す。

二十歳ということには何の喜びも覚えなかった。それは社会的な保護、待遇、責任など、どの時点においても、成年と少年との違いがあまりにはなはだしく思えたからだ。

今一つ思うところは、自分は学生であるため、成人とみなされるにもかかわらず、社会を構成する一員となるべく、職業に就いていないこと。又、将来就くべく職業も決定せず、全く不

からは親元を離れ、自立することになるわけですが、自立してやっとな社会的にも、経済的にも責任をもち、成人のスタートに付いたことになると思います。

私達は高度成長の時代に育ち、物質的にも満たされ、欲しい物はすぐ手に入り、やりたいことは何でもでき、恵まれすぎた環境で育ってきたと思います。そういう環境で育ち、私は親に頼ることしか知らず、精神的に弱く耐えるということあまり

安定な状態にあるのを不本意に思うことである。

確固たる仕事を持っていない者の言うこと、成すことは、重厚さが欠如してしまいうように思われがちだし、事実それを認めざるを得ない側面もあるようだ。

社会人として一人前に働いている人を見ると、自分にもはたしてやっていけるものか不安になる。このままでいいのかとあせる。と、今ここで学校をやめて働いても、喜んでくれる人は一人もいないだろう。勉強しておくことが今の自分に課せられた責務となってしまうようだ。

それなら卒業後は人一倍の頑張りをもち、家族のため、光町のため、あるいは社会に対して少しでも貢献したい。

知りません。

まだ自分のやりたいこともわからぬまま就職し、安定しようという自分自身がこれでいいのかと思いますが、スタートラインに立った気持で一日一日を大切に、後で振り返って悔いの残らぬ人生を送りたいと思います。

そして、人の立場を考えることができ、自分自身を見つめる広い気持を養い、豊かな人間に成長したいと思っています。

父は、百姓のことなら一流で誰にも負けない自信があるから、誰の前でも、体裁がどうであろうと胸を張っていられると自負する。この考えはある一面ではうぬぼれに終りかねないが、何かしら自分に自信を持てる点で、あらゆる時、あらゆる場面に、大きな心の糧となり、効力を発揮してくれるように思う。そういう意味で自分も将来ぜひとも欲しい。

中学生の頃、先生に「人間の一生は竹にたとえられる。そして、そこには大小さまざまな節がある」と教えられた事を覚えている。それならば、成人の日もその節の一つに違いない。とすれば、曲がって伸びていかないためにも、この日の決意を確かなものとしたい。

